

相談窓口一元化の実践事例①(東京都日野市)

取組概要

エール（日野市発達・教育支援センター） 平成26年4月開設

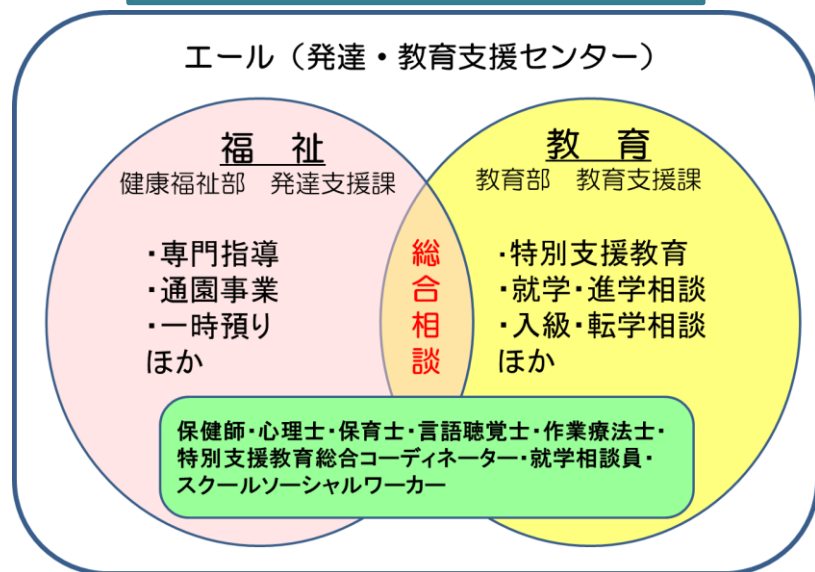
0歳～18歳までの、発達面、行動面、学校生活面において支援を必要とする子供、子供の育ちについて不安のある保護者、関係機関に対し、**福祉分野と教育分野が一体となって切れ目のない支援、総合的な相談や支援を実施**するため、相談・支援の窓口を一本化し、わかりやすい相談体制とした。



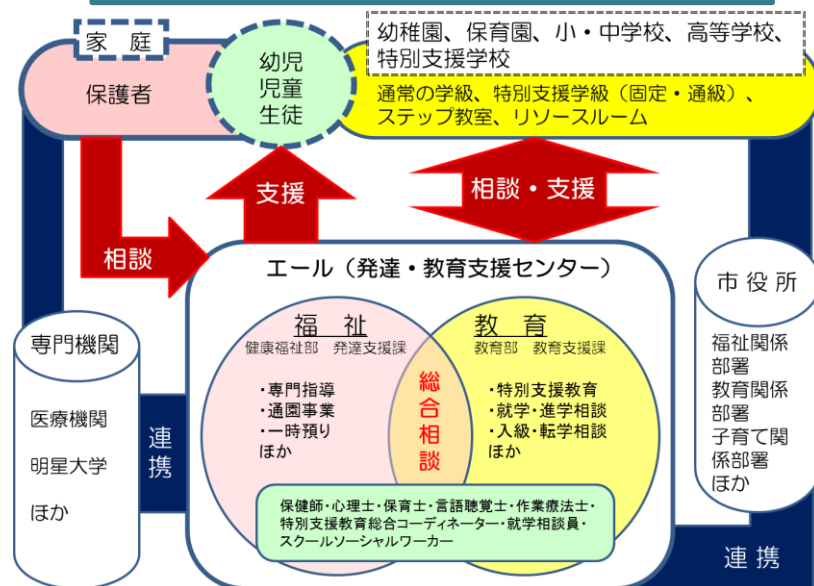
センターの特徴

- ①発達や教育に係る相談・支援の窓口が一本化した、わかりやすい相談体制(「発達支援課」と「教育支援課」を設置)
- ②福祉と教育の連携による切れ目のない支援の実施
- ③多様な専門職による総合支援の実施(心理士、言語聴覚士、作業療法士、保健師、就学相談員、特別支援教育総合コーディネーター、スクールソーシャルワーカーなど)

センターの支援体制



相談支援、関係機関との連携体制



発達・教育支援システムでカルテを一本化して情報を共有

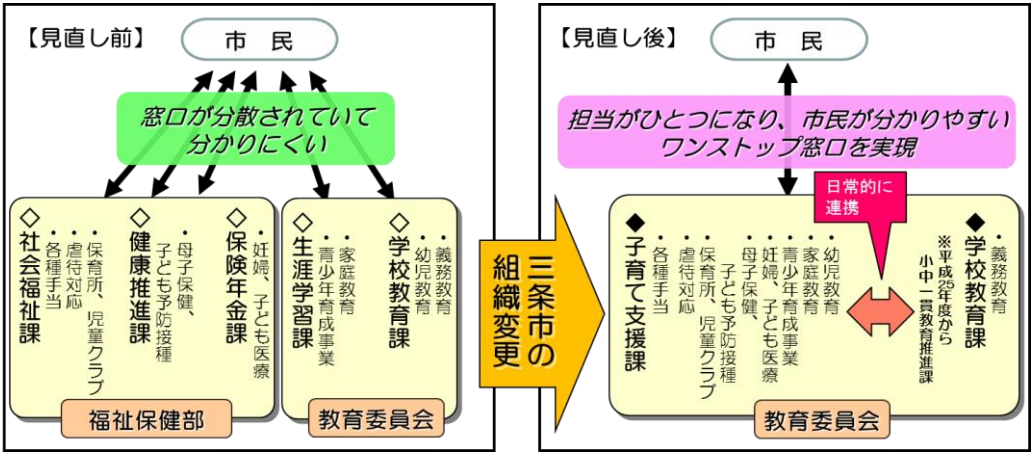
※かしのきシート: エールを中心に作成する福祉と教育が一体となった「個別の支援計画」として作成。

子どもの成長記録やサポート内容を1年ごとに1枚のシートにまとめ、保護者同意の上で関係機関間で記録、保存、引き継ぎがなされる。

相談窓口一元化の実践事例②(新潟県三条市)

取組概要

組織機構の見直しにより、平成20年4月から**教育委員会に『子育て支援課』を設置**。
さらに、平成25年に、子育て支援課の下に「子どもの育ちサポートセンター」を設置し、一人一人の子どもの育ちに応じたきめ細かな継続的支援を行う。
※小中一貫教育推進課の下にある教育センターでは、小中学生の学校生活に関する不安・心配に関する相談に応じており、両センターで、ケースに応じて、情報共有や引継ぎを行う。



支援体制の特徴

子ども・若者総合サポートシステム

乳幼児から就労に至るまで、切れ目なく総合的に必要な支援を行うため、市が情報を一元化し、関係機関が連携して個人に応じた支援を継続的に行えるようにしている。

